

# 地域連携だより



## 患者支援センターの再編成

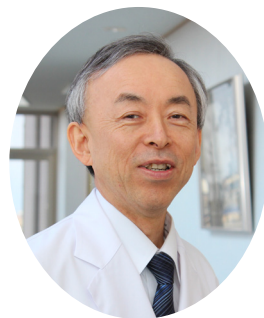
日本は少子高齢化社会となり、射水市の高齢化率は 2025 年には 31.8% と予想されています。超高齢社会といわれて久しく、医療、介護、福祉の関係はより強まっています。病院は病気を治すだけでなく、生活に配慮した質の高い医療が必要になっております。

当院では、地域医療連携室・PTS 推進室（フロアマネジャー）・入退院支援室を患者支援センターとして統合し、総合的なサポートができるシステムを構築してゆきたいと考えております。

まず総合的なサポートには、情報の集約一元化とともに医療情報と生活支援情報の相互交換が重要です。今年度から生活機能の情報を収集した標準的フォーマットとして、生活支援アプリの実用化に取り組んでいます。実用化できれば、カンファレンスや退院支援に大きな力を発揮できると予想しております。右の写真は、関係者との会合風景です。

また、地域の各施設、職種の方々との連携は必須ですが、それには、顔の見える関係が大切と考え、昨年度はケアマネジャー、今年度は調剤薬局の方々和小グループでのミーティングを実施してきました。

オンラインも利用してのハイブリッドで行いましたが、直接の対話の重要性を感じております。



副院長  
はしもと よしひろ  
橋本 義弘



10月27日に開催した第7回いみずケアミーティング



紙面の都合上、取り組みの一部を紹介させていただきましたが、医療法人真生会が地域に溶け込み、一体となって健康、生活の支援ができるよう今後も尽力してゆきたいと思っております。

## いみずケアミーティング スライドショー

真生会公式 YouTube  
「真生会 We チャンネル」  
で第 7 回いみず  
ケアミーティングのス  
ライドショー(約 1 分)  
を公開しています。



## こころの家で敬老会 ～世代を超えた交流～

9月22日、こころの家（看護小規模多機能型居宅介護）で敬老会のイベントが行われました。こころの家の利用者と、法人敷地内にある地域型保育認可施設「木の子ハウス」の園児との世代を超えた交流と、看護師、介護士、保育士、管理栄養士、理学療法士などの多職種が連携して実現できた企画でした。当院の職員で結成された「劇団 TIPS」も参加し、笑顔あふれる時間を共有することができました。企画したスタッフに話を聞きました。



### ◆ 種田理学療法士（劇団 TIPS メンバー）

「こころの家」が開設されてもうすぐ2年ですが、この場所で地域の方や園児と交流会を開催することが私の目標の一つでした。

こころの家の利用者の方には、子どもたちとのふれあいの中で生き生きとした楽しい時間を過ごしてほしい、みんなで体を動かし「できる」喜びを感じてほしいと思っていました。限られた時間ではありましたが、利用者さんの笑顔を見られて本当にうれしかったです。

### ◆ 石川介護士（司会）

こころの家の利用者さんと園児の交流は、園児たちがサツマイモを届けに来てくれたり、こころの家のバルコニーの窓に消えるクレヨンでお絵描きをし、それを室内から見守っていたことがありました。コロナ禍で直接的な交流が難しかったのですが、ようやく同じ空間で交流することができました。利用者さんはこれまで見たことのない笑顔で、「涙が出てくる。またこんな行事があったらうれしいね」「子ども達にまた会えるかね？長生きせんなんね」と話される方もありました。



種田理学療法士



石川介護士



こころの家のレクリエーションの時間に利用者さんとスタッフで作った飾り



### ◆梅原管理栄養士（劇団 TIPS 団長）

「健康応援戦士 We レンジャー『よぼよぼヒーロー?! 仲間を窮地から救え!』というタイトルで劇を行いました。ある日、地域の健康を支える健康応援戦士 We レンジャーのグリーンが、筋力の低下、疲れがとれない、など出動できない状態に。仲間がなぜこうなっているのか分からない We レンジャーのもとに、謎のお婆さん、<sup>なぞばあ</sup>謎婆が現れ、グリーンが「フレイル」であることを告げます。このままでは、いずれ寝たきりになってしまう危機的状況。謎婆に背中を押され、仲間を救うべく、立ち上がる We レンジャー。食事と運動の力でグリーンが元気を取り戻していく、というストーリーです。劇中、皆さんから手拍子や声援をもらいました。皆さんの楽しむ姿がとてもうれしかったです。オリジナル体操「We 体操」は会場の皆さんも一緒に行ってくれ、その時の一体感は忘れられません。今後も地域の健康を願って活動を続けていきますので、よろしくお願いいたします。

### ◆田邊室長（「木の子ハウス」責任者、こども未来室）

利用者さんへのプレゼントとして押し花のしおりを作成しました。また「壁に飾って見ていただけるものもあったら喜ばれるのではないかと保育士から提案があり、子どもたちの手に色を付け、手形を重ねて作品に仕上げました。子どもたちの何気ない線や色づかいはアートブックのようです。

利用者の方々は、子どもたちと一緒にいる時間をとても大切にしてくださっている様子でした。プレゼントも喜んで受け取ってくださいました。子どもたちは、様々な世代の方々との交流によって、情緒豊かに成長してゆきます。子どもたちとの交流によってこころの家のみなさんに元気になっていただけたらうれしいです。



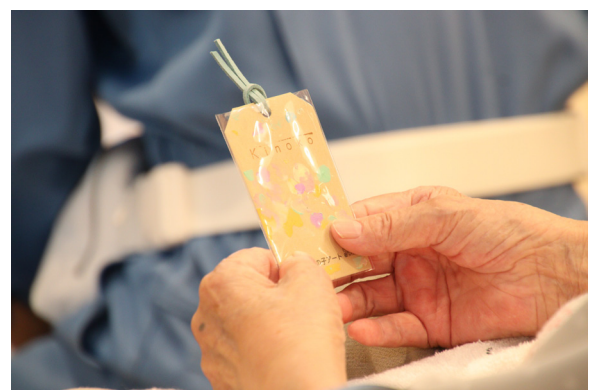
梅原団長（左端）と劇団 TIPS のメンバー



### 敬老会の写真

### スライドショー

真生会公式 YouTube  
「真生会 We チャンネル」で敬老会のスライドショー(約 30 秒)を公開しています。



園児からのプレゼントをじっと眺めておられました

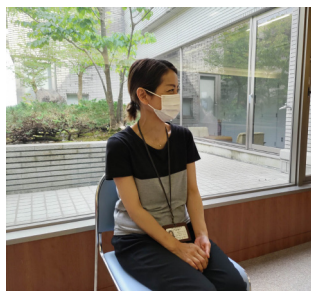
### 【お知らせ】

『地域連携だより』は今号で発行を終了いたします。今後は、ホームページ、広報誌『和顔愛語』、公式 SNS 等で情報発信を行ってまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

## ケアマネジャー×訪問看護師 ～地域を支える方との対談企画～

令和5年7月に、射水市で活躍中のケアマネジャーさんと、当法人の訪問看護ステーション「真生会訪問看護ステーションこころ」の看護師で対談を行いました。射水市でこれからも、高齢で身体が不自由になっても、幸せに暮らすにはどうすればよいか、医療と介護の視点から意見交換。対談で示されたお困りごとの中から一つを取り上げ、紹介いたします。

### ●訪問診療、訪問看護を受けている方が、急に受診が必要となった場合 受診手段がない！



しまい  
島井ケアマネジャー

#### 【ケアマネジャー】

在宅できる医療の充実やサービスの利用により、疾患を抱えた方もご自宅で過ごせるようになってきました。どうしてもご自宅ではできない検査の場合、受診が必要になります。介護タクシーや付き添いサービスの予約が希望の時間に取れない場合があります。ヘルパーも人手不足と聞きます。独居の方が増え、ご家族が遠くに住んでおられると付き添えないため、ケアマネジャーで対応するケースもあります。急を要する場合は救急車ですが、そうでない場合、どうやって受診に行くか、どう手配するかが悩みです。このような需要に応じるサービスがあればありがたいですね。



たけうち  
竹内看護師

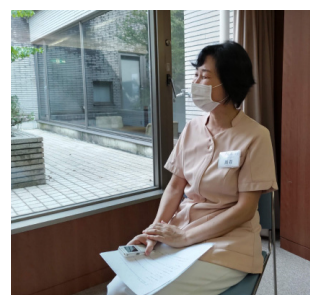
#### 【訪問看護師】

家族背景はずいぶん変わってきました。認知症がある方、独居の方が増えています。訪問看護に伺ってすぐに受診が必要と思われるときはケアマネジャーさんから介護タクシーに連絡してもらうことが多いです。しかし介護タクシーがなかなか見つからなかったり、付き添いや薬の受け取り等の問題もあります。ケアマネジャーさんが受診に同行され、家族に代わってお薬を取りに行かれることもあるそうですね。勤務時間外でも動かざるを得なくて動いておられるのを聞くと、業務に支障が出てきてしまいますし、何か手段があればと常々思っています。

#### 【司会】

都会では診察に同行して診療内容を本人や家族に伝えてくれる医療コーディネーターがあるそうです。お二人から現場の声をお聞きすると、需要があることがわかります。患者さんが一人で病院まで、また受診する科まで行けるのか、医師の話をどこまで理解されたのか、心配な方も中にはおられますね。将来何かできればよいと思います。

対談の様子は、7本の動画にまとめ「真生会 We チャンネル」(YouTube)で公開しています。



たかもり  
高森地域渉外室スタッフ

### 対談動画 YouTube 配信

真生会の We チャンネルで対談の様子を全7回で公開中。今回紹介した受診手段の他に、「介護が必要になったときの相談先」「家に人をあげたくない方への関わり方」などが話題に上りました。

